令和7年度版 中学校「国語」教科書について

1. 編修の基本方針

今、言葉にできることの、すべてを。

予測困難な時代。子供たちに託された未来は、決して単純なものではありません。あふれる情報の中から確かな未来につながる道筋を見いだすこと。多様性を生かして正解が一つに決まらない問いに向き合うこと。他者と協働して新たな価値を生み出すこと。これからの時代に必要な力の、土台となるのが、「言葉」です。

今、言葉にできることの、すべてを。どんなに時代が変わっても、変わることなく人生を支え、人とつなぎ、未来を開く言葉の力を子供たちに贈りたい。私たちはその一心で、教科書を編修しました。





特色 1

ゆるぎない言葉の力を育む

どんなに時代が変わっても、
子供たちを支え続ける。
普遍的な国語力を育む教科書です。

・・・

その学習でどんな言葉の力を身につけるのか。学習の目的と資質・能力を明示することで、生徒が自ら学習の見通しをもち、主体的に考えて取り組めるようにしました。習得と活用を滑らかにつなぐ構成で、螺旋的に力を高めていきます。



特色 2

言葉と生きる主体を育む

言葉でつながる。創る。
未来を切り開く。生きた言葉の
使い手を育む教科書です。

・・・

優れた作品・文章を通して人や社会の本質に迫るとともに、情報分析や論理的思考、他者理解、コミュニケーションなど、新しい時代に求められる国語力を培う教材を用意しました。豊かな人生の基盤となる語彙力や言語感覚を養います。



特色 3

新しい時代の学びを提案する

ICT 機器を活用して、
一人一人の学びに寄り添い、
授業を活性化する教科書です。

・・・

思い描いた言葉の力を自らの手で獲得できるよう、ICT を活用した授業の活性化や個別最適な学びを提案します。主体的な学びを導く、授業の導入に活用する、個に応じて補充的・発展的に扱うなど、多彩なコンテンツを用意しました。

特色 1

ゆるぎない言葉の力を育む

―― どんなに時代が変わっても、子供たちを支え続ける。普遍的な国語力を育む教科書です。

「学びのカギ」

生徒を「主体的・対話的で深い学び」へ誘います。

全領域で学習の流れとポイントを明確に示し、生徒が主体的に取り組めるようにしました。

学習のポイント　　学習の流れ



学びへの扉（「読むこと」手引き）



「話す・聞く」「書く」教材最初の見開き

3領域共通の紙面構成

学びの地図
「学びのカギ」検索ツール。
生徒が自ら、過去・現在・未来の学びをつなぎます。

見通しをもつ

- 言語活動と学習目標を示しました。
- 目標は、次の２種類で構成しました。
  「知識及び技能」（知る）
  「思考力、判断力、表現力等」（各領域）

実行する・試行錯誤する

- 学習指導要領の学習過程に則して展開します。重点は黄色で示しました。

学びのカギ・学びの地図

- 教材や教科を超えて活用できる、普遍的な資質・能力を示しました。
- 資料編「学びのカギ」一覧やデジタル資料「学びの地図」を使えば、過去・現在・未来の学びがつながります。

言の葉ポケット

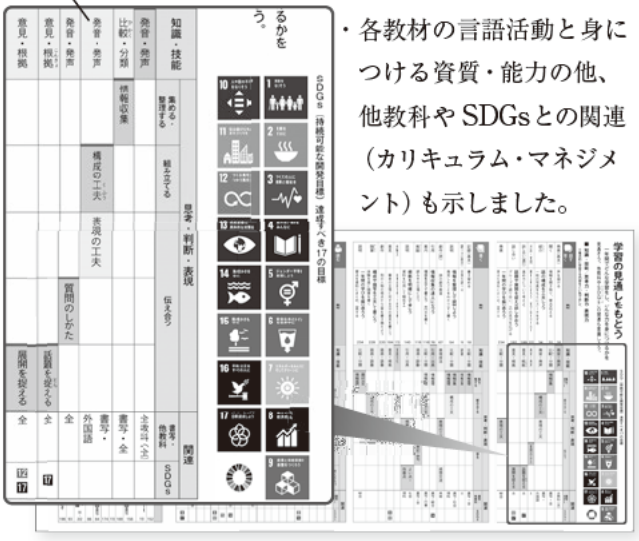
- 語彙を広げ、語感を高める課題です。

振り返る

- 新しい評価（３観点）に対応しました。
  「知識・技能」（知る）
  「思考・判断・表現」（各領域）
  「主体的に学習に取り組む態度」（つなぐ）
- 身につけた資質・能力や自己の変容を言語化し、次に生かします。

巻頭「学習の見通しをもとう」

1年間の国語学習全体が見渡せます。



・各教材の言語活動と身につける資質・能力の他、他教科やSDGsとの関連（カリキュラム・マネジメント）も示しました。

巻末「国語の力試し」

身につけた資質・能力を評価できます。

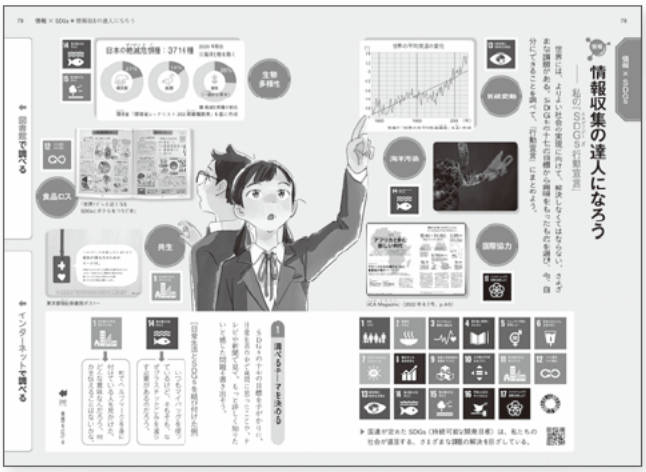


・身につけた資質・能力を自己評価する問題です。
・二次元コードからCBT（コンピュータによる設問形式）を体験できます。解答と自己採点機能も付いています。

特色 2 言葉と生きる主体を育む

―― 言葉でつながる。創る。未来を切り開く。生きた言葉の使い手を育む教科書です。

「情報×SDGs」



「情報×SDGs」「情報整理／思考のレッスン」

言葉と情報で分断を超え、正解が一つに決まらない問いに挑み続ける人を育みます。

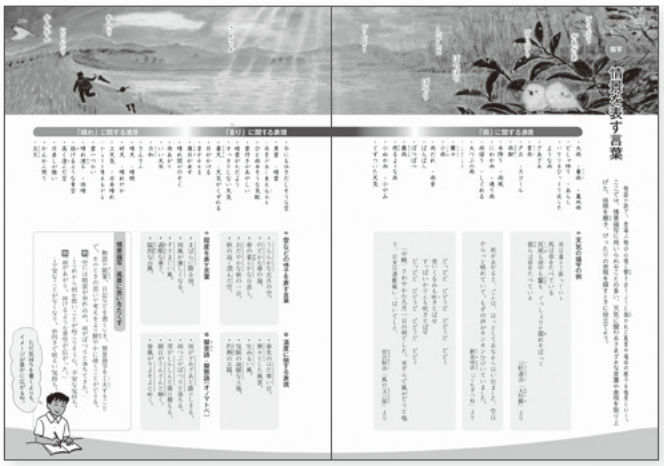
情報×SDGs

・社会の問題を自分のこととして捉え、解決を目ざす。言葉で思考し、協働して課題解決に挑む力を育みます。

・情報収集の方法や、図表を含む情報の読み方が学べます。

「情報整理のレッスン」「思考のレッスン」

・比較・分類の方法や、「意見と根拠」「原因と結果」など、情報整理や論理的思考の基礎・基本はここで学びます。



「語彙ブック」

「語彙を豊かに」「語彙ブック」

語彙力を鍛え、表現を豊かにします。

語彙を豊かに ― 心情を表す言葉

・主体的に語彙を増やし、語感を磨く方法を、各学年の「語彙を豊かに」で系統的に学びます。

語彙ブック

・巻末に「語彙ブック」を置き、思考や表現を支える言葉を多数紹介しました。

・「知っている」言葉を「使える」言葉に育てるために、用例や使用場面を示しました。



特色 3 新しい時代の学びを提案する

―― ICT 機器を活用して、一人一人の学びに寄り添い、授業を活性化する教科書です。



「聞く」「話し合い（進行）」

動画や音声の視聴から始まる学び。



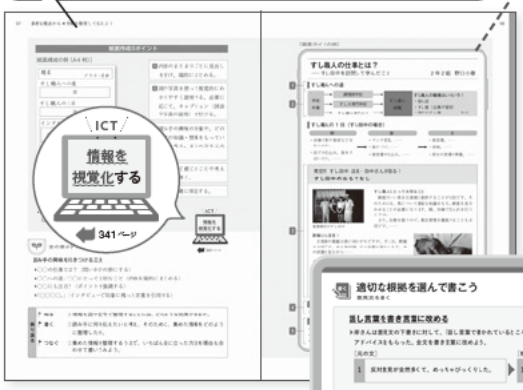
「話し合い（進行）」（台本は次ページ）

・二次元コードの動画・音声を視聴し、意見の妥当性や議論の進め方を評価する教材です。

・社会生活の基盤である「聴解力」＝相手の話を聞いて理解する力を鍛えます。

「書く」「書くことのミニレッスン」

一人一台端末の活用法を提案。



ガイドブックの制作やコメント機能による交流など、必然性のある場面でICT機器の活用を提案しています。

・文章上達のコツをつかむミニレッスンも実装。

